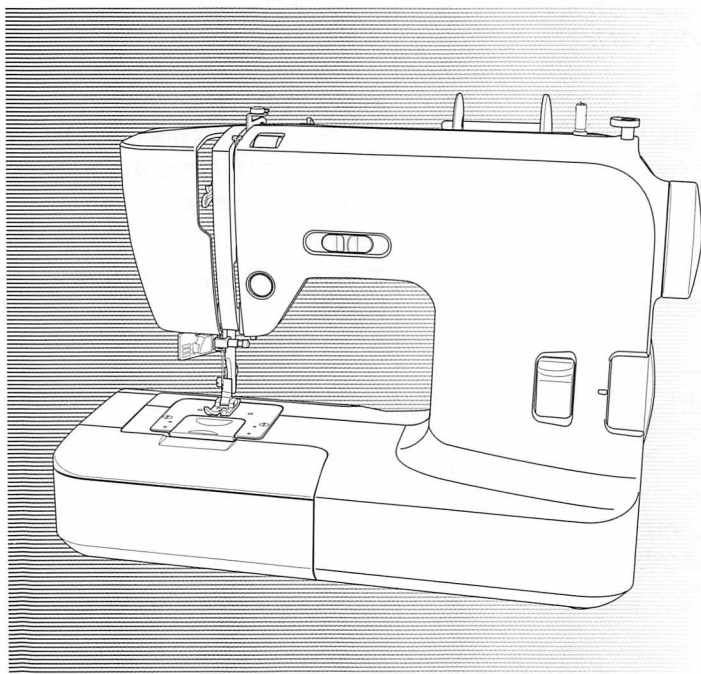


取扱説明書

型式: **MS-8200**シリーズ



安全にお使い
いただくために

使用上の注意

各部のなまえと
はたらき

縫うための準備

縫って
みましょう

お手入れの
しかた

こんなときは
(調子が悪いとき)

サービス工場
のご案内

このミシンを安全にご使用いただくため、「取扱説明書」をご使用前に必ずお読みください。また、「取扱説明書」はお手元に保管し、末長くご使用ください。

AWE®

もくじ
安全にお使いいただくために
 表示の説明 1
 警告 2
 注意 3
使用上の注意
 守っていただきたいこと 4
各部のなまえとはたらき
 本体（前面） 5
 本体（背面） 6
 補助テーブルのはずしかた 6
 フリーアームの使いかた 6
 付属品 7
縫うための準備
 針と糸、布の関係 8
 正しい針の選びかた 9
 針の取りかえかた 9
 押えのはずしかた 10
 押えの取り付けかた 10
 電源コード接続の前に 11
 電源を入れる 11
 ミシンをスタートさせる 12
 ボビンの取り出しかた 12
 下糸の巻きかた 13~14
 下糸のかけかた 15
 上糸のかけかた 16~17
 糸通し器の使いかた 18~19
 下糸の引き上げかた 20
 模様の選びかた 20
 模様の種類 21

縫ってみましょう
 ためし縫い 22
 返しぬい 23
 縫い方向のかえかた 23
 厚い布の縫い始め / 段縫い 24
 上下糸調子の取りかた 24~25
 ジグザグ縫い模様 / 縁かがり 26
 ボタンホールのはずしかた 26~27
 まつり縫い 28
 点線ジグザグ縫い 29
 パッチワーク 29
 伸縮 / 強化縫い 30
 アププリケ 30
お手入れのしかた 31~32
こんなときは（調子が悪いとき） 33~34
サービス工場のご案内 34
修理サービス要領 35
仕様 35
オプション部品の使いかた 36~37
保証書 最終

このたびは弊社ミシンをお買い上げいただきまして、まことにありがとうございます。
 このミシンは、直線縫いやジグザグ縫いはもちろん、まつり縫いやボタンホールを作ることのできる模様が装備されている家庭用ミシンです。
 このミシンの特徴をご理解していただき、正しくお使いいただくために、まずこの「取扱説明書」をよくお読みください。
 この「取扱説明書」は、保証書とともに大切に保管してください。
 弊社では、皆様に常に最新の縫製性能を提供するため、必要に応じてこのミシンの外観やデザイン・付属品を変更することがあります。

表示の説明

このミシンを安全にご使用いただくために、以下のことがらを必ず守ってください。
 このミシンは日本国内向け、家庭用ミシンです。 For use in Japan only.

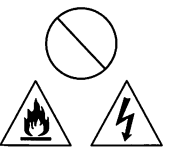
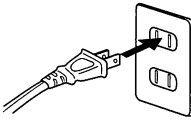
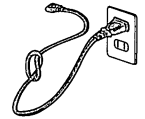

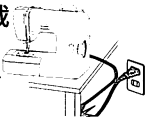
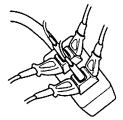
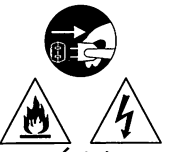
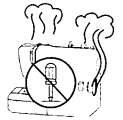
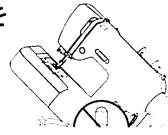
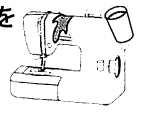
	警告	この表示を無視し誤った使い方をすると、人が死亡または重傷を負うおそれがある内容を示しています。
	注意	この表示を無視し誤った使い方をすると、人がケガをしたり財産に損害が生じるおそれがある内容を示しています。

この説明書で使用している絵文字の意味

危険性を促す記号					
	火災の原因 になります		感電の危険性 があります		ケガの危険性 があります
行為を「禁止」する記号					
	してはいけないこと		分解禁止		
行為を「指示」する記号					
	必ずする こと		電源プラグをコンセント から抜く		

●取扱説明書の内容を許可なく無断で複製をすることは禁じられておりますのでご了承ください。

警告 死亡・火災・感電することがあります。

 <p>火災・感電することがあります。</p>	<p>一般家庭用電源AC100ボルト以外は絶対に使わないでください。</p> 
	<p>電源コードを傷つけたり、折り曲げ、結び、ねじれ、加工はしないでください。</p> 
	<p>傷付いたり、溶けて線がむき出しになった電源コードを使わないでください。</p> 
	<p>電源コードに机や椅子の脚など、重いものを載せないでください。 *コードが傷付いた場合は販売店・サービスセンターにて純正の電源コードをお買い求めください。</p> 
	<p>延長コードや分岐コンセントを使用したタコ足配線はしないでください。</p> 
 <p>火災・感電の原因となります。販売店・サービスセンターにご連絡ください。</p>	<p>発煙や異臭、異音などの異常が発生したら電源を切り、電源プラグを抜いてください。</p> 
	<p>落としたり正常に作動しないときは、電源を切り、電源プラグを抜いてください。</p> 
	<p>ミシンの中に水や異物が入ったときは、電源を切り、電源プラグを抜いてください。</p> 

注意 ケガや損害を生じることがあります。

	<p>電源コードを抜くときはプラグ部分を持って抜いてください。コードの断線や接触不良による感電の原因になります。</p>
	<p>電源コードはミシンに巻きつけないでください。コードの断線や接触不良による感電の原因になります。</p>
	<p>濡れた手で電源プラグを抜き差ししないでください。コードの断線や接触不良による感電の原因になります。</p>
	<p>不安定な場所に置かないでください。</p>
	<p>動作中に、はずみ車・針・天ピンに手を触れないでください。手や指が挟まったり、針が刺さるなどのけがの原因になります。</p>
	<p>曲がった針は使わないでください。針が折れ、ケガの原因になります。</p>
	<p>すべり板を開けたままミシンを操作しないでください。</p>
	<p>縫製中に布を無理に引っ張ったり押ししたりしないでください。手や指が挟まったり、針が刺さるなどのけがの原因になります。</p>
	<p>ミシンを使用しないときは、電源プラグを抜いてください。絶縁劣化、漏電などによる火災の原因になることがあります。</p>
	<p>ミシンから離れたり使用を中断するときは、電源プラグを抜いてください。火災の原因になることがあります。</p>
	<p>幼児の手が届かない場所に保管してください。針や押えなどの突起がケガの原因になることがあります。</p>
	<p>糸のセットをするときやミシンのお手入れをするときは電源スイッチを「OFF」にしてください。作業途中にミシンが動く恐れがあり、ケガの原因になります。</p>
	<p>ミシンの操作中はミシンから目を離さないでください。</p>
	<p>交換した針を放置しないでください。</p>
	<p>お子様が使用するときや、お子様の近くで使用するときには特に安全に注意し、お子様から目を離さないでください。</p>
	<p>針・押え・アタッチメント・ランプを交換するときは、電源スイッチを「OFF」にしてください。作業途中にミシンが動くことがあり、ケガの原因になります。</p>
<p>屋外や直射日光のあたる場所、高温多湿な環境、寒い場所での使用は避けてください。部品の劣化や変形、正常に作動しないことがあります。</p>	

長くお使いいただくため、次のことを守ってください。

業務用や縫製以外の目的にはご使用にならないでください。

極度の部品磨耗や破損につながります。

守っていただきたいこと



注意



ケガや損害を生じることがあります。

曲がった針を使わない

曲がった針を使うと、ケガや部品破損の原因になります。

- 針穴に刺さらず折れた針が飛び、ケガをすることがあります。
- 押えや針板に傷をつけ、糸がらみや糸調子があわなくなります。

このミシンで縫えないもの

次のものはこのミシンでは縫えません。針やモーターなどに過度の負担をかけ、故障の原因になるだけでなく、針折れなどの原因になります。

- 木・プラスチック・金属などの板
- ぬれた布・あらい網(魚網など)
- はずみ車を手で回しても、針が刺さりにくい布
- 厚さ6mm以上の布

保管時の結露(つゆつき)について

寒いところから、暖かい室内に持ち込んだときや、冬の朝など暖房を入れたばかりの部屋では、本体の表面や内部に結露(つゆつき)が起こることがあります。

結露がなくなるまで、電源を入れずにお待ちください。そのままお使いになると感電や誤動作・故障の原因になります。

直射日光・熱気をさける

直射日光が当たる場所や熱器具の近くには置かないでください。プラスチックのカバー部分や内部部品に変色・変形や部品劣化などの悪い影響を与えますのでご注意ください。

糸がらみのとき、糸・布を引っ張らない

針や部品を破損します。

絡んだときは針板をはずし、針糸と針板裏側の糸を切ると布がはずれます。

ミシン表面のお手入れ

プラスチック部分の汚れがひどいときは、中性洗剤をぬるま湯に薄め、布に浸して固く絞りふき取ってください。その後、必ず乾いた布で仕上げてください。

ベンジン・シンナー・ワックスなどでは拭かないでください。

説明書で指定された部分以外の分解・改造をしない

ネジ類の締め忘れやゆるみにより、針折れや部品の破損につながります。

長期間ご使用にならないとき

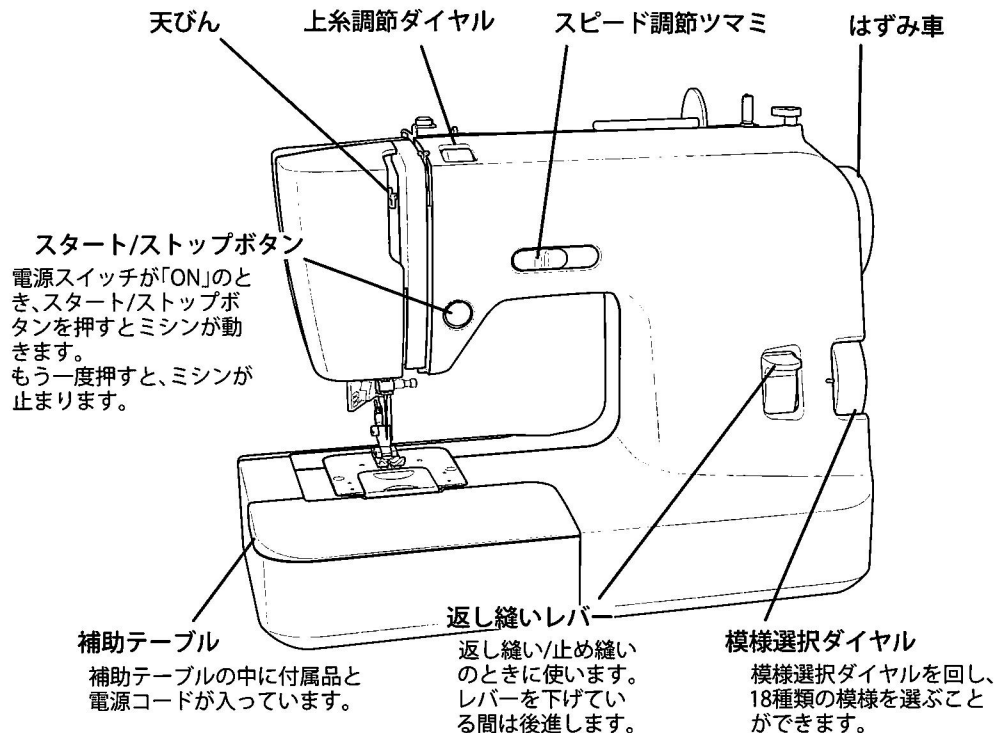
長期間ご使用にならないと、油の乾燥・固着により機能に支障をきたす場合があります。定期的にミシンを動かすと油の乾燥・固着を未然に防ぐことができます。

本体(前面)

天びんは左ミソの中にあります。

ダイヤルをまわし、縫いあがりの上糸を調節します。

スピード調節ツマミを左右に動かして、縫う速度を自由に変えることができます。左にすると遅く、右にすると速くなります。

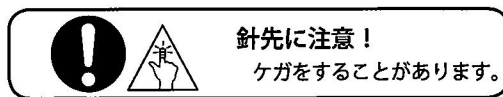


スタート/ストップボタン
電源スイッチが「ON」のとき、スタート/ストップボタンを押すとミシンが動きます。もう一度押すと、ミシンが止まります。

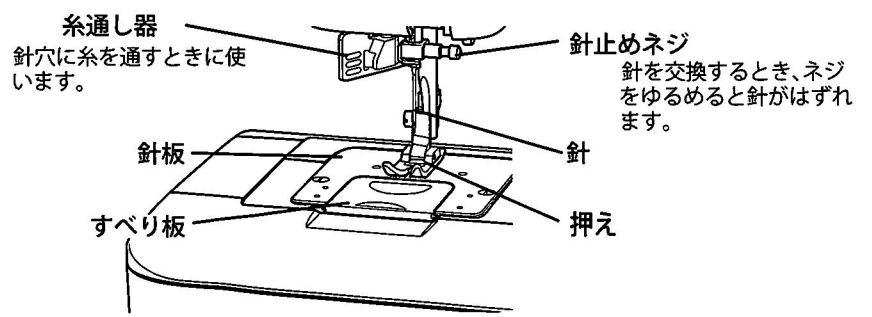
補助テーブル
補助テーブルの中に付属品と電源コードが入っています。

返し縫いレバー
返し縫い/止め縫いのときに使います。レバーを下けている間は後進します。

模様選択ダイヤル
模様選択ダイヤルを回し、18種類の模様を選ぶことができます。



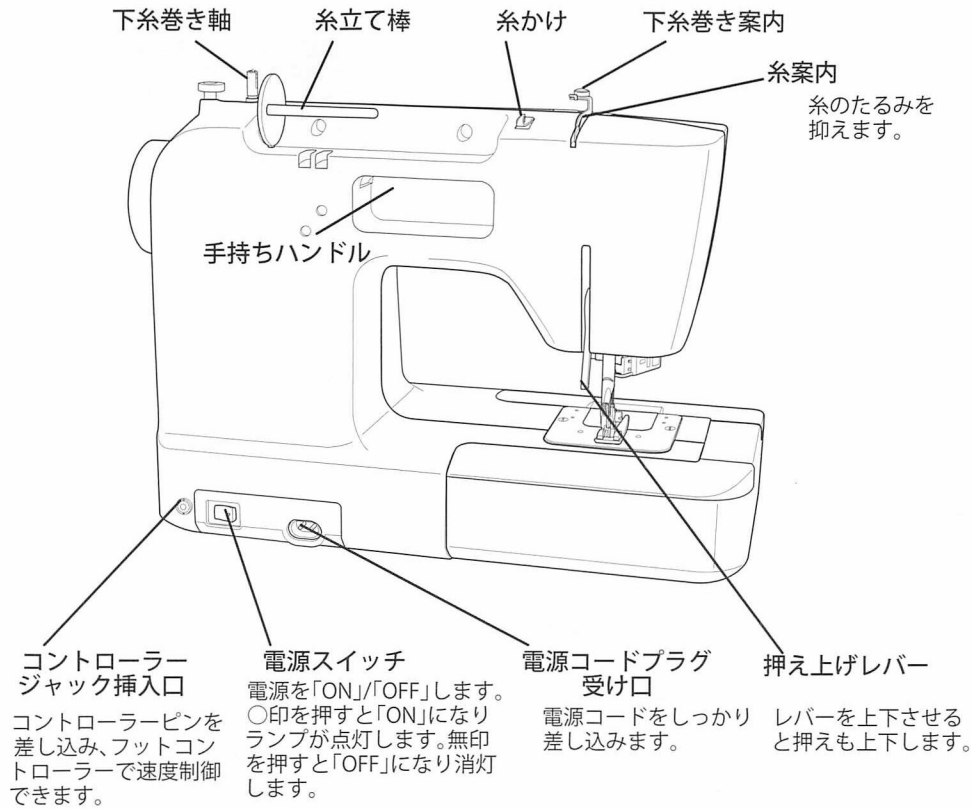
針先に注意!
ケガをすることがあります。



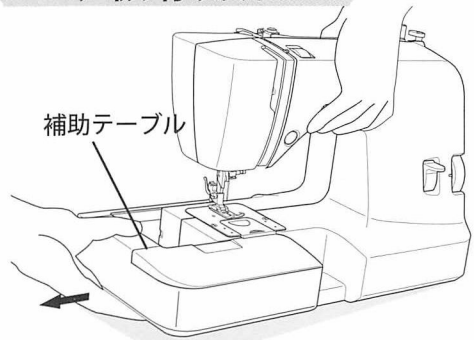
糸通し器
針穴に糸を通すときに使います。

針止めネジ
針を交換するとき、ネジをゆるめると針がはずれます。

本体(背面)

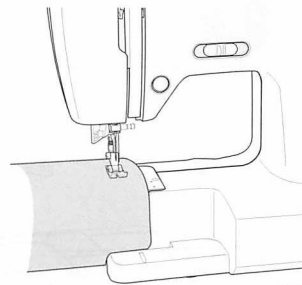


補助テーブルのはずしかた
取り付けかた



補助テーブルをはずす時は、ミシン左側を少し持ち上げて引くとはずしやすくなります。

フリーアームの
使いかた



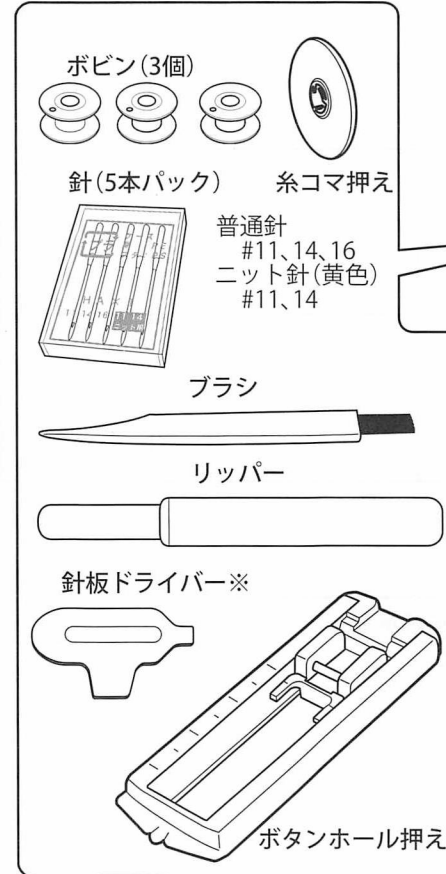
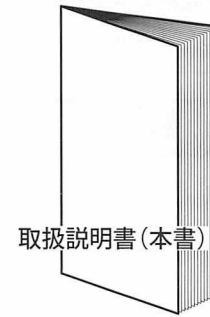
補助テーブルをはずし、袖やすそなどの筒ものを差し込みフリーアームベッドとしてお使いいただけます。

付属品



注意

同梱している付属部品でお子様がケガをすることがあります。



※針板ドライバーは針板止めネジ・針止めネジ・押えホルダー止めネジに使用します。

針と糸、布の関係

工場出荷時、ミシンには14番の普通針が装備されています。(その他、付属の針は7ページ参照)



- ・上糸と下糸は同じ種類・同じ太さのものをご使用ください。
- ・針は家庭用ミシン針(HA×1)、糸は家庭用ミシン糸とご指定ください。
- ・きれいに縫うためには、布にあった針と糸をご使用ください。

布の種類		糸の番号 *1		針の番号 *2
薄地	薄地ジョーゼット、ポイル、タフタ、オーガンジー、絹布など	綿	80~100	9~11
		絹	60~80	
化繊糸	80~100			
普通布	さらさ木綿、薄手コーデュロイ、ピケ、ギンガム、リンネル、サテン、別珍、一般服地など	綿	50~80	11~14
		絹	50	
化繊糸	50~80			
厚布	ギャバジン、ツイード、キルティング、デニム、コーデュロイ、タオルなど	綿	40~50	16
絹	50			
化繊糸	50~60			
伸縮地の布	ダブルニット、トリコット、スパandex、ジャージなど	綿	60	ニット用針 11~14
化繊糸	50~80	ニット用糸		

*1: 糸は数字が大きくなるほど細くなります。

*2: 針は数字が大きくなるほど太くなります。



針先に注意!

ケガをすることがあります。

正しい針の選びかた



注意



曲がった針を使わない
ケガをすることがあります。



- ・針は家庭用ミシン針(HA×1)を使う
- ・上糸と下糸は原則的に同じ種類・同じ太さのものを使う

1. 目飛びや糸が絡む場合は、ミシンについている針の先端が曲がっていたり、つぶれていないかを確認してください。
2. 不良の針を使い続けると、きれいに縫えないばかりでなく針板やカマに傷をつけます。新しい針に交換してください。

○ 正しい針



× 悪い針



全体に曲がっている



先端のつぶれ



先端の曲がり

※ガラスのような平らな面に置き、針の曲がりを確認してください。

針の取りかえかた



注意



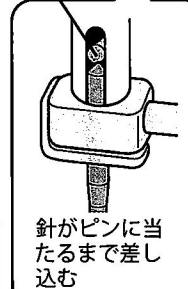
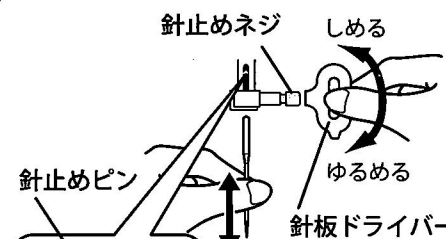
・電源プラグを抜く
突然動くケガをすることがあります。



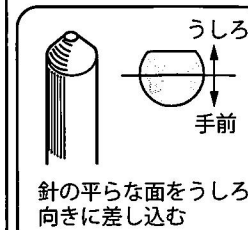
・針先に注意!

ケガをすることがあります。

1. はずみ車を手前に回し、針を上げます。
2. 針をはずします。
取り付けられている針を持ち、針止めネジをゆるめ、針を下に引き抜きます。
3. 針を取り付けます。
平らな面を自分から見えないように持ち、図のように針止めピンに当たるまで差し込み、針止めネジを締めます



針がピンに当たるまで差し込む





針の平らな面をうしろ向きに差し込む

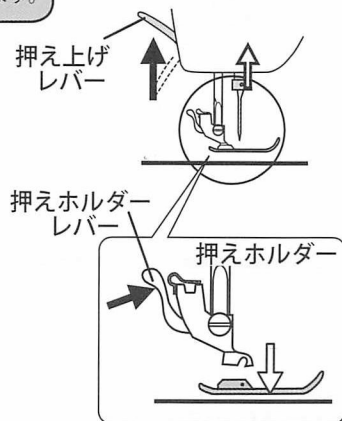
※ 針交換には、付属の針板ドライバーをお使いください。

押えのはずしかた

 注意	  電源プラグを抜く 突然動くとかげをすることがあります。
---	--



  針先に注意! ケガをすることがあります。
--

1. はずみ車をまわし、針を上げます。
2. 押え上げレバー(プラスチック)を上げます。
押えが上がります。
3. 押えホルダーレバー(金属)を手前に引きます。
押えが押えホルダーからはずれます。

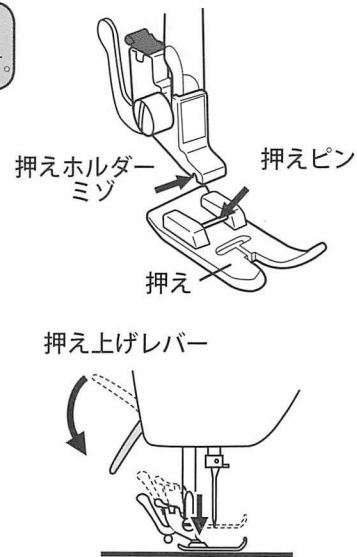


押えの取り付けかた

 注意	  ・電源プラグを抜く 突然動くとかげをすることがあります。
---	---

  針先に注意! ケガをすることがあります。
--

1. はずみ車をまわし、針を上げます。
2. 押え上げレバーを上げ、押えホルダーミゾと押えピンの位置をあわせ
ます。
押えホルダーミゾと押えピンの位置があっていないと押えが取り付けられません。
3. 押え上げレバーを下げます。カチッと音がすれば押えが装着できています。
押えが取り付けられていない場合は、押えホルダー溝と押えピンの位置をもう一度あわせなおしてください。

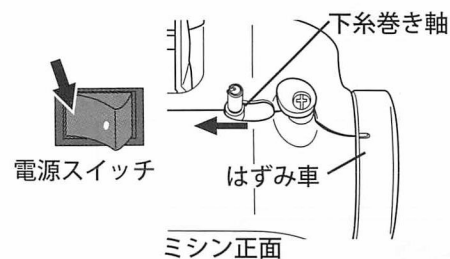


電源コード接続の前に

 注意	  電源プラグを抜いておく 突然動くとかげをすることがあります。
	<ul style="list-style-type: none"> ・安定した場所に置く ・作業スペースを十分に確保する ・周囲に物を置かない

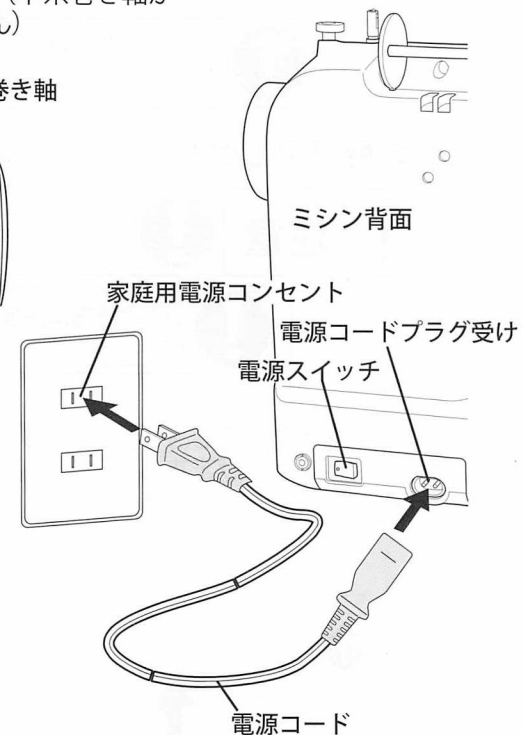
ミシンを持ち運ぶ際には、背面の手持ちハンドル部分に手をかけて持ち運びます。



1. 電源スイッチを「OFF」にします。
2. 下糸巻き軸(ミシン上部はずみ車側)をミシン正面から見て左に寄せます。(下糸巻き軸が右側にあると針は動きません)



電源を入れる

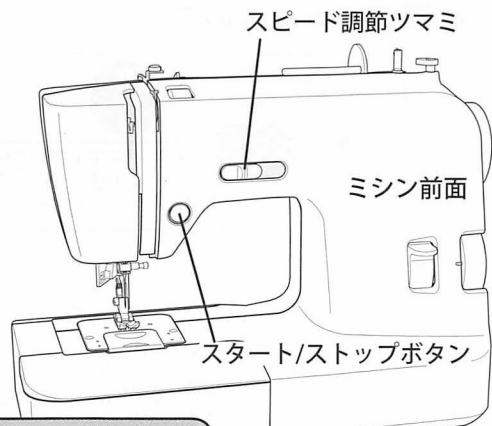
1. 電源コードのプラグをミシン本体のプラグ受けに差し込みます。
2. 電源コードの反対側のプラグを電源コンセントに差し込みます。
3. 電源スイッチを「ON」にします。
照明ランプが点灯します。



 警告	  電源コードはプラグ部分を持ち 抜き差しをする 死亡、火災、感電のことがあります。
---	--

ミシンをスタートさせる

1. スピード調節ツマミを「ゆっくり」にします。
慣れるまではスピードを遅くします。
2. スタート/ストップボタンを押します。
ミシンがゆっくり動きだします。
3. もう一度スタート/ストップボタンを押します。
ミシンが針上で止まります。



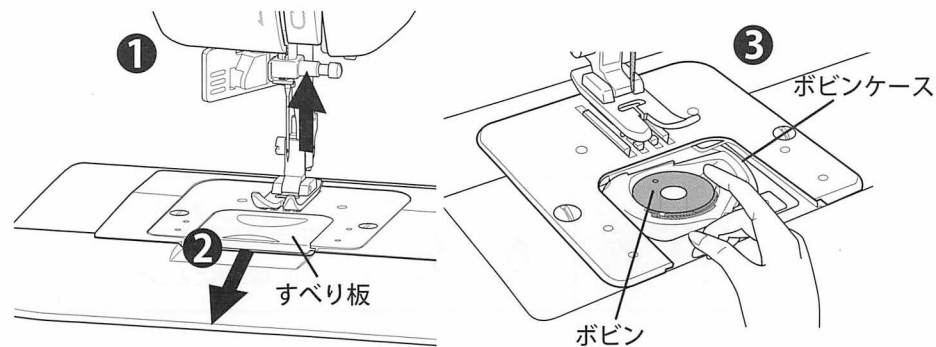
針先に注意!
ケガをする恐れがあります。

ボビンの取り出しかた

注意 電源スイッチを「OFF」にする
突然動くとケガをすることがあります。

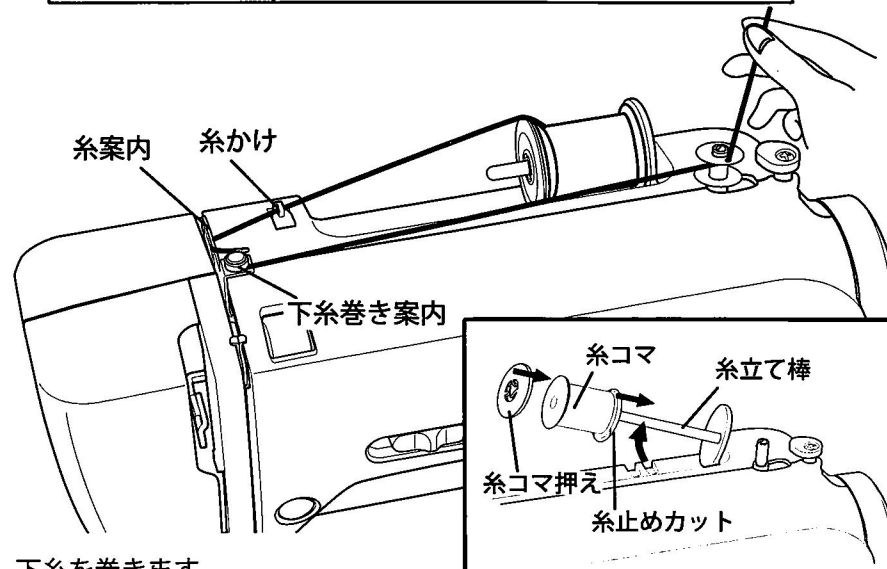
針先に注意!
ケガをすることがあります。

1. はずみ車を手前に回し、針を一番高い位置まで上げます。
2. すべり板を手前に引き、開きます。
3. ボビンケースの中のボビンを取り出します。



下糸の巻きかた

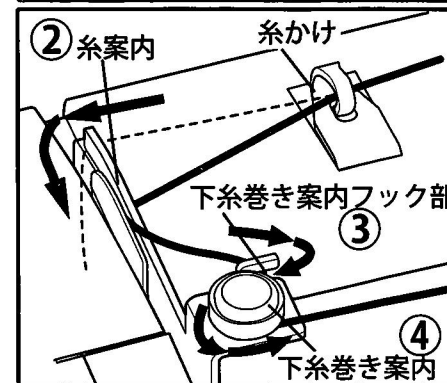
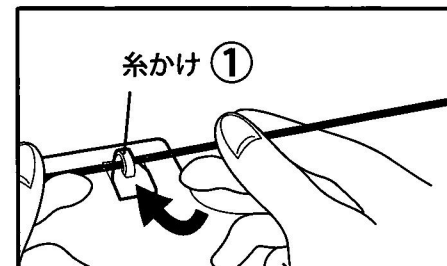
注意 電源スイッチを「OFF」にする
ケガをすることがあります。

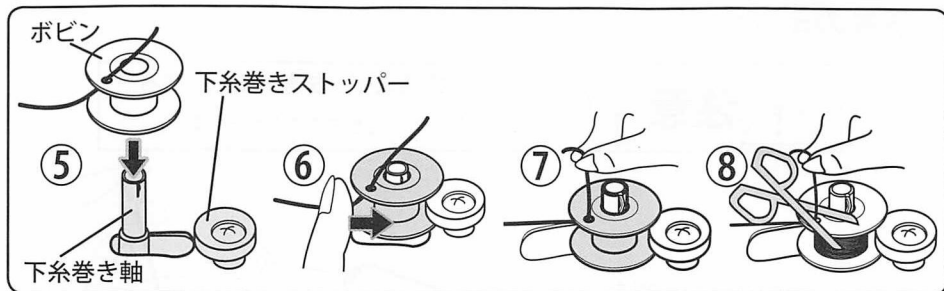


下糸を巻きます。

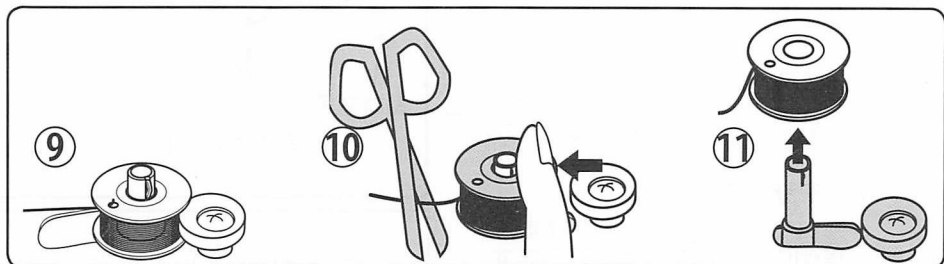
- ・糸コマの糸止めカットをはずみ車側に向け奥まで差し込みます。
糸が引き出されるときに、糸止めカットに引っかからないようにします。
- ・糸コマ押えの膨らみを糸コマに向け、抜けないように押さえます。
- ・糸コマをセットしたあと、糸立て棒を水平に戻します。

1. 糸コマから引き出した糸を両手で手前から糸かけに差し込みます。
2. 糸かけから糸案内に糸をかけます。
3. 下糸巻き案内のフック部に糸をかけます。
4. 下糸巻き案内に反時計回りに糸を巻きつけるようにつけていきます。





5. 図のようにボビンの内側から糸を通し、下糸巻き軸に奥まで差し込みます。
6. 糸を通したまま下糸巻き軸を右に寄せます。
7. 糸端を持ち、スタート/ストップボタンを押します。
糸巻き軸が回転します。
8. ボビンに糸が少し巻けてから、スタート/ストップボタンを押し、停止させます。持っていた糸を切ります。



9. もう一度、下糸巻き軸をスタートさせ、ボビンに80%ほどになるまで糸を巻き、スタート/スタートストップボタンを押して停止してください。
10. 下糸巻き軸を左側に戻し、糸を切ります。
11. 糸の巻き上がったボビンを抜きます。

糸がボビンいっぱい巻けてもボビンの回転が止まらないことがあります。



下糸巻きの途中でボビンに触れない
ケガをすることがあります。下糸巻き軸にセットしているボビンも共に回転します。

下糸巻きの作業中は針が止まります。

下糸巻きの作業途中では針・天ピンに手などを近付けない
ケガをすることがあります。突然動き、危険です。

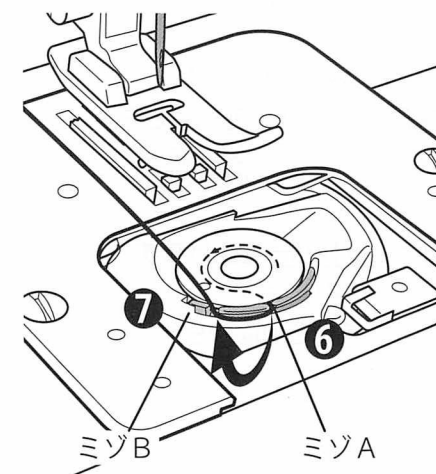
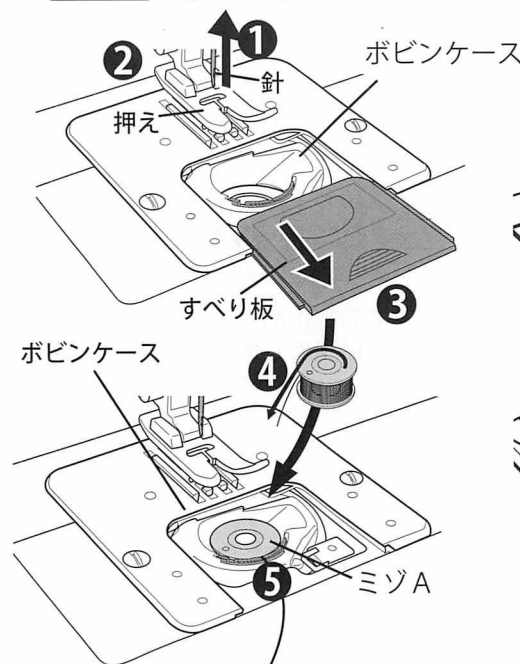
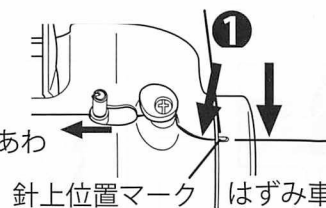
下糸のかけかた

注意 電源スイッチを「OFF」にするケガをすることがあります。

針先に注意! ケガをすることがあります。

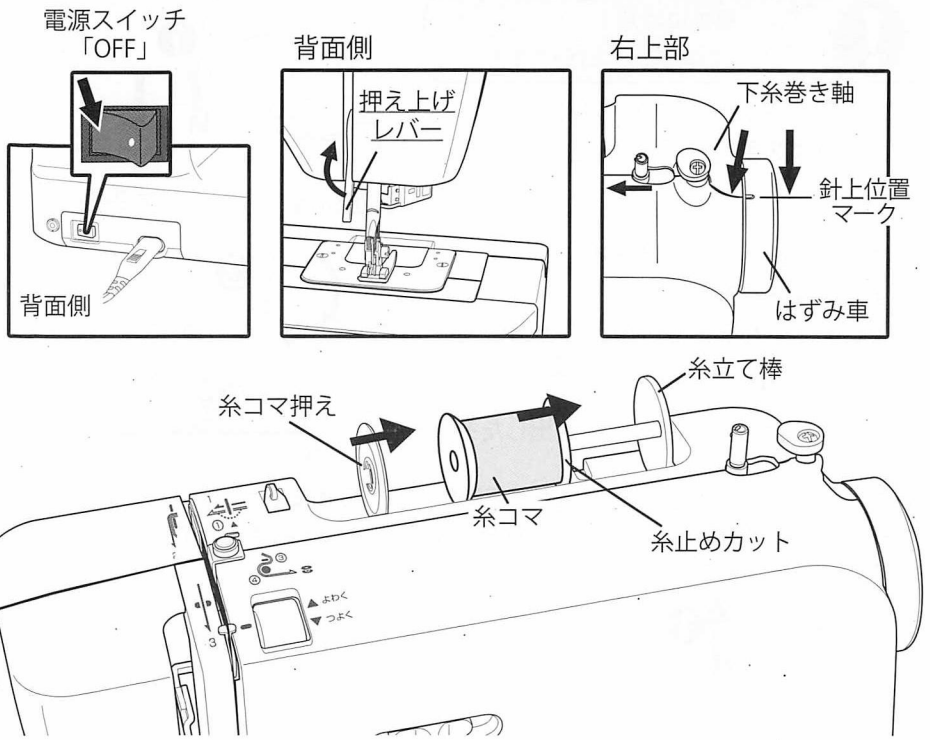
ボビンケースに下糸をセットします。

1. はずみ車を手前に回し、針上位置マークをあわせませます。
針・天ピンが上がります。
2. 押え上げレバーを上げます。
3. すべり板を開きます。
4. ボビンから糸を10cmほど引き出し、ボビンの左側から糸が出るようにしてボビンケースにセットします。
5. ボビンを指で軽く押さえ、引き出した糸をミゾAにかけます。
6. かけた糸を手前に引き、ミゾAからミゾBへすべらせませます。
7. 糸はしをミゾBの上ののせ、矢印の方向に10cmほど引き出しておきます。
8. すべり板を閉めます。



上糸のかけかた

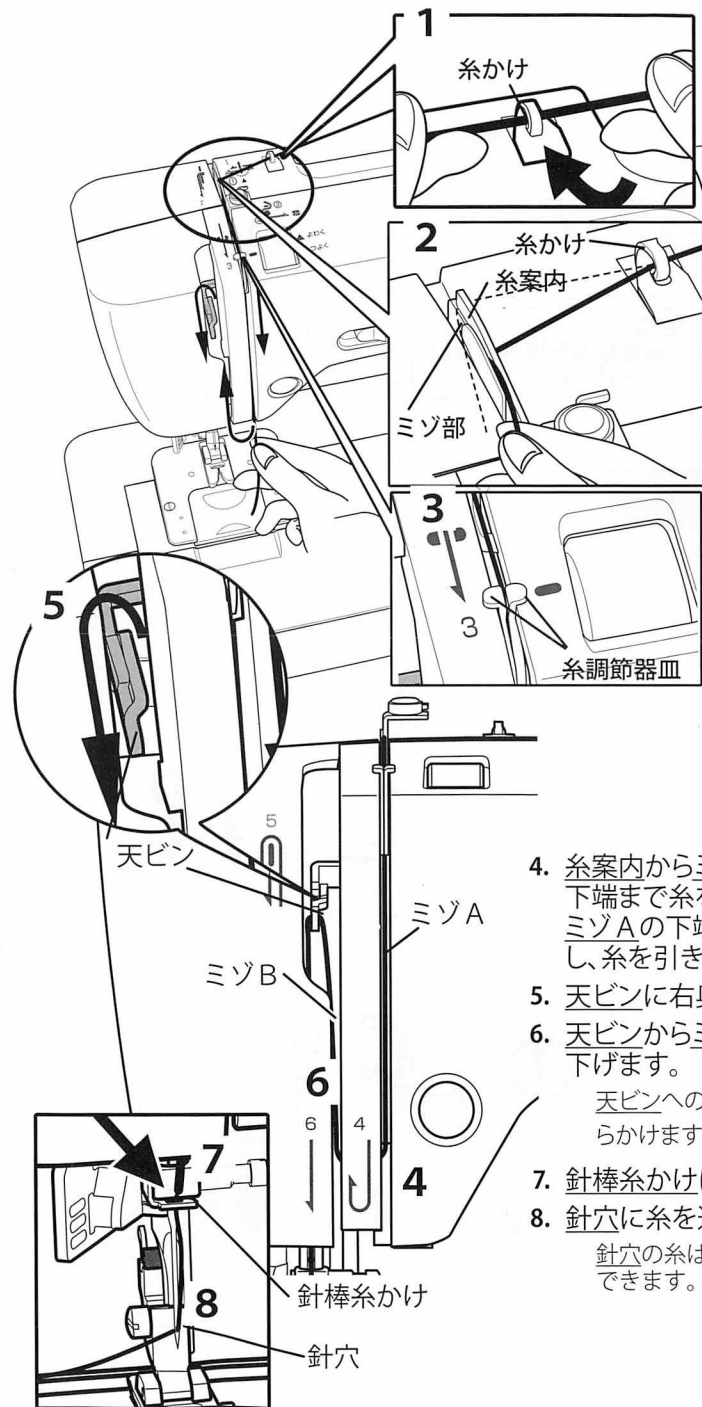
注意 電源スイッチを「OFF」にする
ケガをすることがあります。



上糸(針糸)をセットします。

- 電源スイッチを「OFF」にします。
糸かけをしているときにスイッチに触れてしまい、突然動く恐れがあるためです。
- 押え上げレバーを上げます。
押えが上がります。
- 下糸巻き軸を前面から見て左側にします。
下糸巻き軸が左側のときは針が上下(運針)し、右側のとき針は上下せず、糸巻き軸が回転(ボビンの糸巻き)します。

- はずみ車を手前に回し、針上位置マークをカバーの線にあわせます。
針が一番高い位置になります。
- 糸コマの糸止めカットをはずみ車側に向け奥まで差し込みます。
糸が引き出されるときに、糸止めカットに引っかからないようにするためです。
- 糸コマ押えの膨らみを糸コマに向け、抜けないように押さえます。
糸コマをセットしたあと、糸立て棒は水平にします。



1. 糸コマから引き出した糸を手前から糸かけに差し込みます。
糸かけのミゾ奥から糸が出るようになります。糸かけは糸コマからスムーズに糸が引き出されるようにするためのものです。
2. 糸かけから糸案内のミゾ部を經由して手前に引き出します。
糸かけは上糸のねじれを取り除き、上糸がスムーズに送り込まれるようにするものです。
3. 2枚の糸調節皿の間に糸をしっかりと入れます。
押えが下がったまま糸かけをすると、上糸調子が効かず、布裏がタオル状になり糸がからみます。(上下糸調子のあわせかた参照)

4. 糸案内からミゾAにそって下端まで糸を引き下げます。
ミゾAの下端から左側のミゾBに移動し、糸を引き上げます
5. 天ビンに右奥からかけます。
6. 天ビンからミゾBの下端まで糸を引き下げます。
天ビンへの糸は拡大図のように天ビン奥からかけます。
7. 針棒糸かけに右から糸をかけます。
8. 針穴に糸を通します。
針穴の糸は糸通し器を使って通すことができます。(糸通し器の使いかたP18参照)

糸通し器の使いかた

このミシンは面倒な針穴の糸通しをミシンに装備されている糸通し器を使って、簡単に通すことができます。



注意



電源スイッチを「OFF」にする
ケガをすることがあります。



針先に注意!

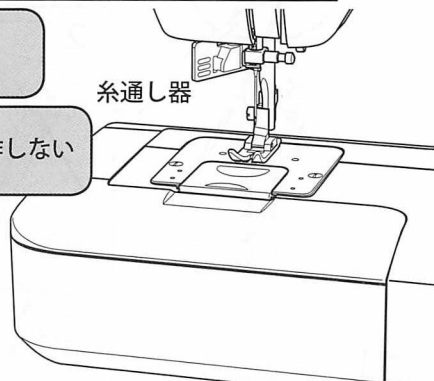
ケガをすることがあります。



糸通し器を下げすぎない
動いているときに、糸通し器を操作しない
部品を破損することがあります。

糸通し器が使用できる
針と糸の太さの組み合わせ

針	糸
11	60番/80番/100番
14	50番/60番/80番
16	50番/60番



1. はずみ車の針上位置マークをあわせませ
す。

マークをあわせると、針が上がり糸通し器が
使えるようになります。マークがあっていない
と部品を破損します。

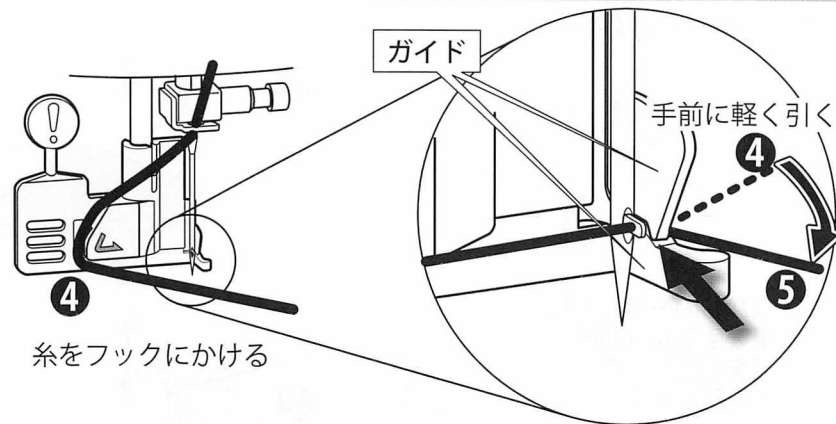
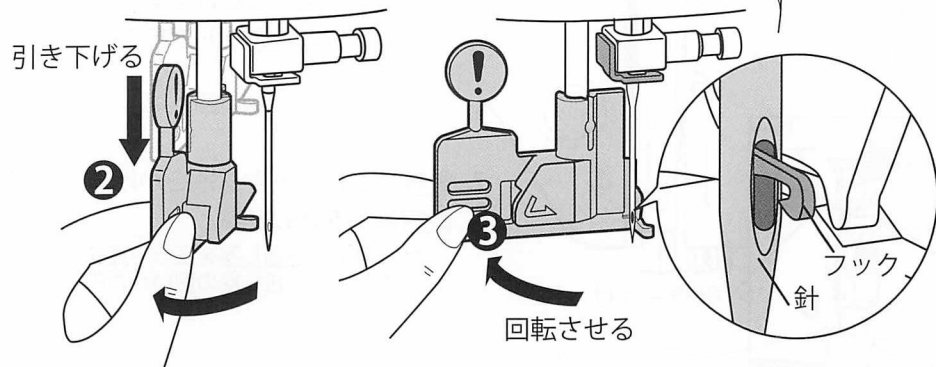


2. 糸通し器をつまみ、引き下げます。

下げ過ぎると抜けてしまうことがあります。抜けた
ときは向きをまちがえないように軸の下から
強く押し上げてください。

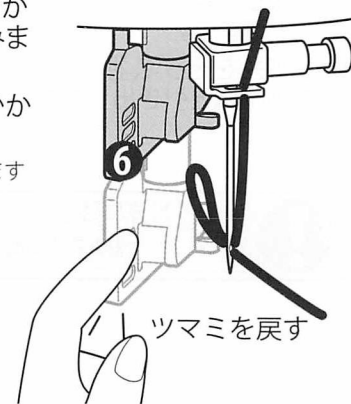
3. 糸通し器を下げたまま矢印の方向に回転
させ、手を離します。

糸通し器が上に戻ってしまうときははずみ車の
針上位置マークをもう一度確認してください。



糸をフックにかける

- 針止め糸かけから糸通し器の糸かけ部分に糸を
かけ、拡大図のように上下のガイドの間に差し込み
ます。
- そのまま糸を手前に引くと針穴のフックに引っか
ります。
引っかかったときに糸を引くと、L型になり確認
できます
- 糸通し器を戻します。
糸が針穴に通ります。
- 針穴うしろの糸の輪を引き出します。



つまみを戻す



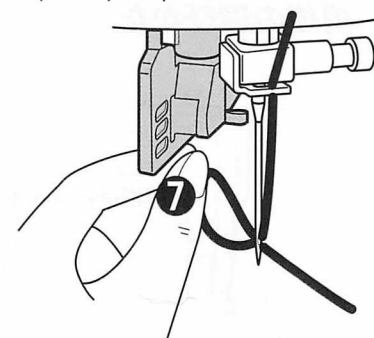
針先に注意!

ケガをすることがあります。



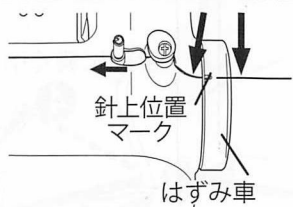
曲がった針を使用しない

部品を破損することがあります。

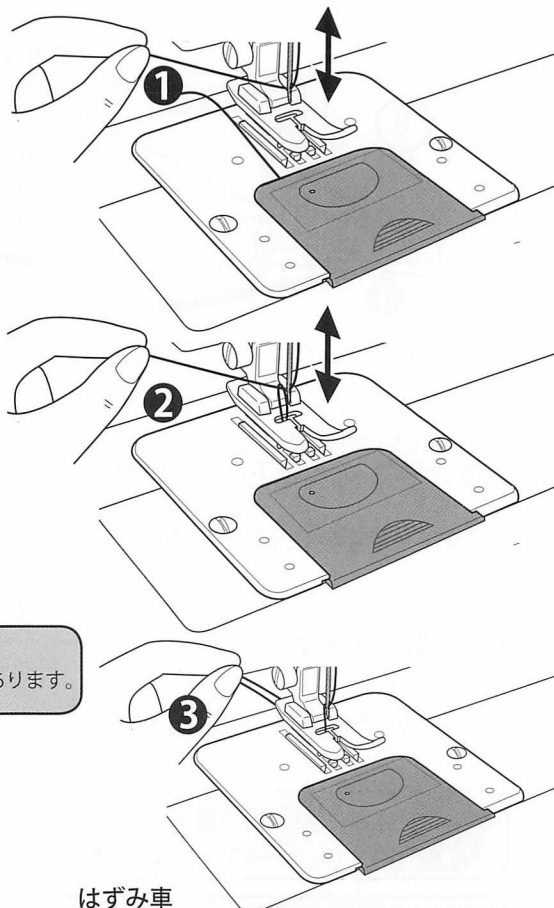


糸の輪を引き出す

下糸の引き上げかた

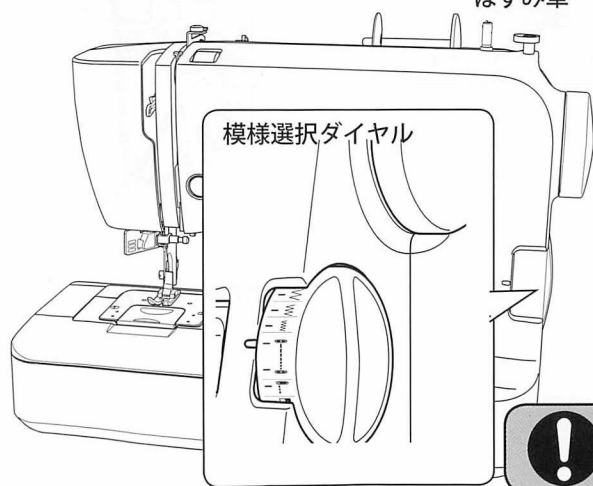


1. 針穴からの糸はしを持ちはずみ車を手前に1回転マーク位置まで回します。(針は最上点まで回します。)
2. 糸はしを軽く引くと下糸を引き上げます。
3. 上下糸をそろえ、押えの下へ10cmほど引き出します。



! 針先に注意!
ケガをすることがあります。

模様を選びかた



! はずみ車を手前に回し、針を上げます
針が刺さったまま模様選択ダイヤルをまわすと、針が折れ、ケガをすることがあります。

模様選択ダイヤルを回し、お好みの模様にします。
(ダイヤルはどちらにも回ります)

! 針先に注意!
ケガをすることがあります。

縫い模様の種類

! 針先に注意!
ケガをすることがあります。

! はずみ車を手前に回し、針を上げます
針が刺さったまま模様選択ダイヤルをまわすと、針が折れ、ケガをすることがあります。

模様							
呼び名	直線		ジグザグ				点線ジグザグ
	左基線	中基線 無段階	幅小	幅中	幅大	密着縫い	
押え	標準押え (ジグザグ押え)						

模様									
呼び名	まじり縫い	伸縮まじり縫い	伸縮縫い	縁かがり縫い	三重ジグザグ縫い	三重直線縫い	ボタンホール		
							サイドステッチ 左側	かんぬき止め	サイドステッチ 右側
押え	標準押え (ジグザグ押え)						ボタンホール押え		

※ 押えの交換方法はP10をご覧ください。

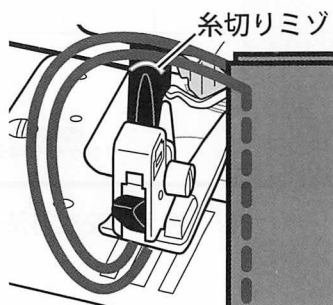
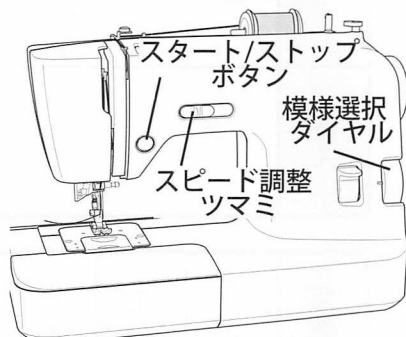
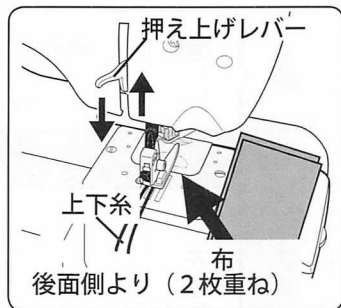
ためし縫い

! 下糸巻き軸を左側にする
下糸巻き軸が右側にあると、針が上下しません。

! 針先に注意！
ケガをすることがあります。

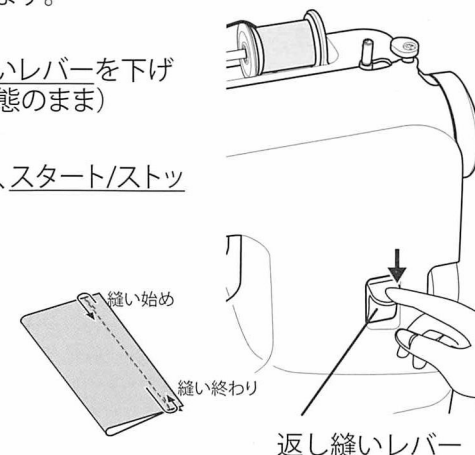
上下糸をかけ、縫う準備ができると、はじめに布の切れ端など2枚用意し、縫い調子を確認します。

1. 下糸巻き軸を左側にします。
ミシンで縫う状態になります。
2. はずみ車を手前にまわし、針・天ピンを上にします。
3. 押え上げレバーを上げ、上下糸をそろえて押えの下・後側へ10cm程のばします。
4. 押えの下に準備した布を2枚重ねで置きます。
縫い始めの位置にはずみ車を手前に回して針を刺します。
5. 押え上げレバーを下げます。
押えが下がり、布を固定します。
6. 模様選択ダイヤルをまわし、縫いたい模様にします。
7. ミシンの速度に慣れるまでは、スピード調整ツマミを「ゆっくり」にします。
8. 電源コードを接続し、電源スイッチを「ON」にします。
ランプが点灯し、動く準備ができます。
9. 上下糸の端を軽く後側に持ち、はずみ車を2～3回回転まわして糸が絡まず縫えることを確認します。
カマ付近で「ガチャガチャ」と音がするときは縫えないときが多く、スタートさせても絡んでしまいます。上糸と下糸のかけ方をもう一度確認してください。
10. スタート/ストップボタンを押します。
ミシン針が上下し、縫い始めます。
11. 縫い終わる位置に到達したら、もう一度スタート/ストップボタンを押し、ミシンを止め、押えを上げます。
12. 布を後側に引き出し、上下糸をそろえて押え棒後側の糸切りミゾに引っかけ、引きます。
上下糸が切れ、布が取り出せます。



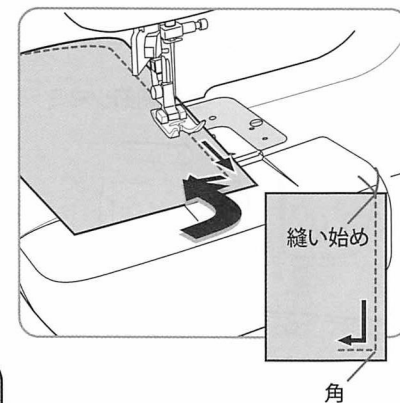
返し縫い

1. 返し縫いレバーを押し下げながら、スタート/ストップボタンを押します。
返し縫いレバーを下げている間は布が後進します。
2. 返し縫いレバーから手を離します。
布が前進します。
3. 縫い終わりでもう一度返し縫いレバーを下げます。(ミシンは動いている状態のまま)
布が後進します。
4. 返し縫いレバーを下げたまま、スタート/ストップボタンを押します。
ミシンが停止します。



縫い方向のかえかた

1. 布の角まで到達したら、スタート/ストップボタンを押し、ミシンを止めます。
2. 布の角に針を刺します。
はずみ車を手前に回し、針をいっぱいまで下げます。
3. 押え上げレバーを上げます。
布は針を中心に自由に回転できます。
4. 針を中心に運針方向を変えます。
5. 押え上げレバーを下げます。
6. 再び、スタート/ストップボタンを押し、縫い始めます。



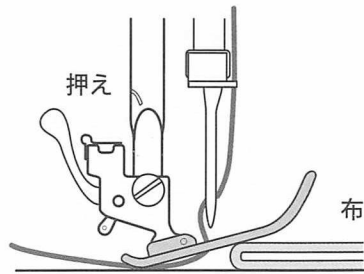
! 針先に注意！
ケガをすることがあります。

厚い布の縫い始め/段縫い

厚地の布はしから縫い始めるときは、押えが傾きスムーズに布が進まないことがあります。

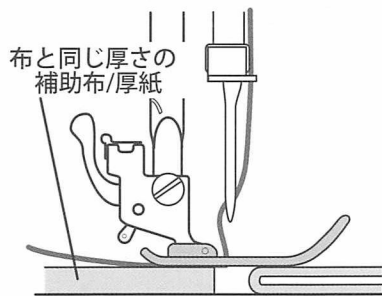
1. 押えを上げ、布を入れます。
2. 押えの後側に同じ厚さの布や厚紙を置きます。

押えが水平になり、布が引っかかりなくなります。



段縫い(布が重なり急に厚くなる部分)では、布が進まなくなることがあります。

1. 布が厚い部分の手前で止めます。
2. 押えが水平になるところまではずみ車を手でまわし、縫い進めます。(縫い速度を「ゆっくり」にして進む場合もあります)
3. 再びスタート/ストップボタンで縫い進めます。(縫い速度を戻して縫い進めます)

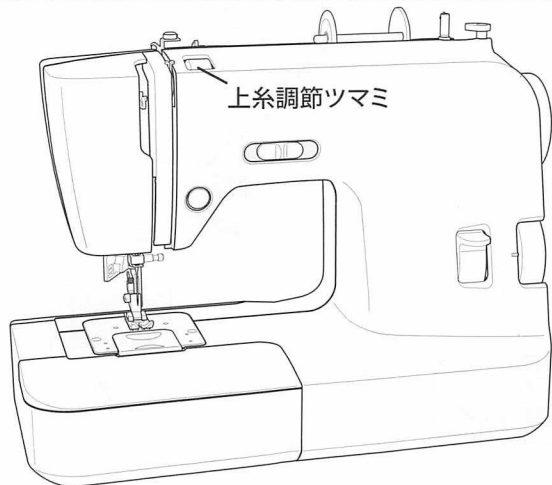
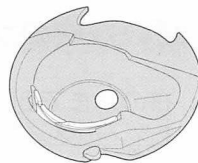


上下糸調子のとりかた



ボビンケース(下糸)のネジは調整しない

一度調整ネジを回すともとの状態に戻らなくなります。次に縫うときに上下糸が合わせられなくなります。

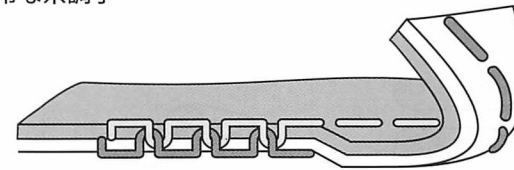


このミシンは自動糸調子になっています。

しかし、布の種類や厚さ、硬さによっては縫いあがりの糸調子が合わない場合があります。

縫い上がりの糸調子が合っていないときは、上糸を上糸調節ダイヤルで調節ができます。

正常な糸調子



自動上糸調子です。一般的な布・糸は基本的に上糸調節ダイヤルを自動にします。



▲よわく
▼つよく

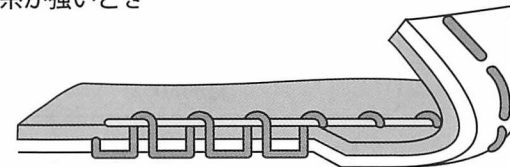
上糸調子の基本位置



上糸調子は少しずつ回してください

上糸調子が合いにくくなります。

上糸が強いとき



上糸がつっているときは上糸を弱めます。



▲よわく
▼つよく

上に回すと上糸が弱くなります

下糸が強いとき(上糸が弱いとき)



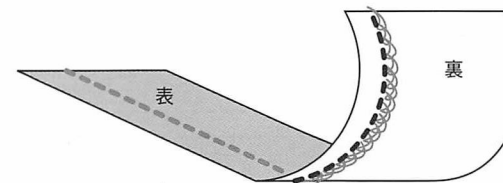
下糸がつっているときは上糸を強めます。



▲よわく
▼つよく

下に回すと上糸が強くなります

布の表がきれいに見え、裏がタオル地のような場合は、上糸の調子が弱すぎるか上糸のかけかたが間違っています。もう一度、上糸をすべて抜き取り、P16~17をご覧になり、正しくかけなおしてください。また、上下糸調子に従って調整してください。



ジグザグ縫い模様/縁かがり

! 針先に注意!
ケガをする恐れがあります。

! 模様選択時は針を上げます
針が折れ、ケガをする恐れがあります。

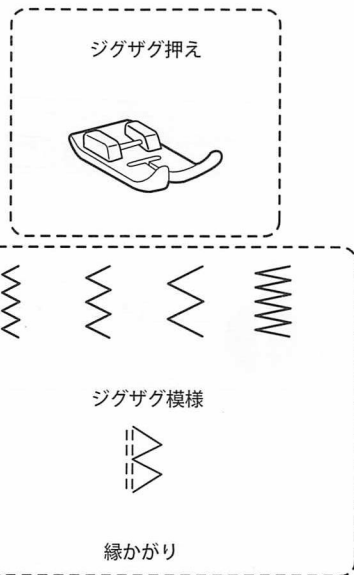
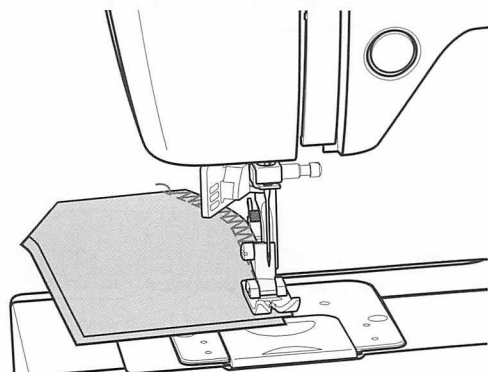
! 下糸巻き軸を左にしてください
下糸巻き軸が右にあると針が上下しません。

1. はずみ車を手前に回し、針・天ピンを上げます。
2. 模様選択ダイヤルをジグザグ/縁かがり縫い模様にあわせませす。

ジグザグ模様は布のほつれ止め端縫い、伸縮性の布を縫うなどいろいろな用途に使えます。

ワンポイント
アドバイス

ジグザグ/縁かがり縫い模様は直線模様と比べ、糸調子をわずかに弱くするときれいに仕上がります。



ボタンホールの作りかた

●準備

1. ジグザグ押えをはずし、ボタンホール押えを取り付けます。
2. ボタンの大きさと厚さ、布の種類に応じてボタン穴の長さを決めます。

※ 押えの取りかえかたはP10をご覧ください。

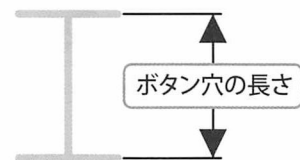


! 下糸巻き軸を左にしてください
下糸巻き軸が右にあると針が上下しません。

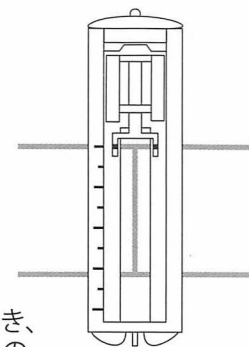
! 模様選択時は針を上げます
針が折れ、ケガをすることがあります。

! 針先に注意!
ケガをすることがあります。

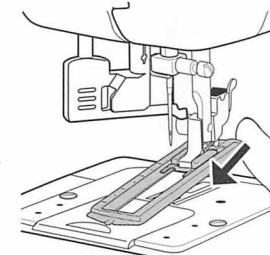
ボタン穴の長さ=ボタンの直径+厚み



3. 布をボタンホール押えの下に置き、押えの赤い線を布の縫いはじめの線に合わせます。さらに、ボタン穴の中心線が押えの穴の中央にしてボタンホール押えを下げます。



ボタンホール押えは下げるときに外枠を手前に引いておきます。

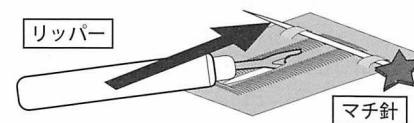


ボタンホール押え外枠は前後にスライドします。

模様	1	2	3	4
縫いかた	 A~Bの位置でミシンをとめます	 5~6針かんぬき止めをし、ミシンを止めます	 A~Bの位置でミシンをとめます	 5~6針かんぬき止めをし、ミシンを止めます

●ボタンホールができたら

1. 付属のリッパーで切り開きます。
切りすぎないようにマチ針等(ストッパー)を使用します。



! 先端に注意する
(リッパー、マチ針)
ケガをすることがあります。

まつり縫い

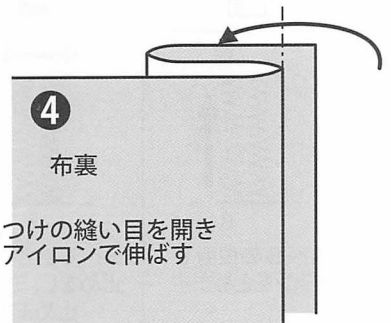
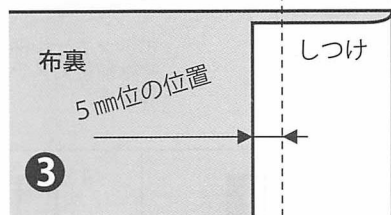


模様選択時は針を上げます
針が折れ、ケガをすることがあります。



針先に注意!
ケガをすることがあります。

仕上がり
全長



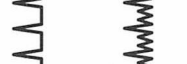
- 図のように押えの下に布をおき、はずみ車をゆっくり手でまわしながらまつり縫い模様の山部分が布の重なった部分にわずかに刺さるように合わせます。
- スタート/ストップボタンを押し、模様の山部がはずれないようにゆっくり最後まで縫います。
- 布を返し、しつけ糸を抜きます。

まつり縫い模様では針が左のとき、布の折山にかかる量が少ない程きれいに仕上がります。また、布の重なりをはずれると縫い合わせません。

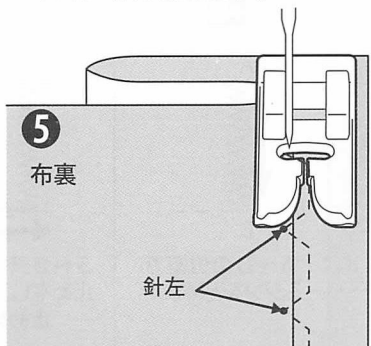
ジグザグ押え



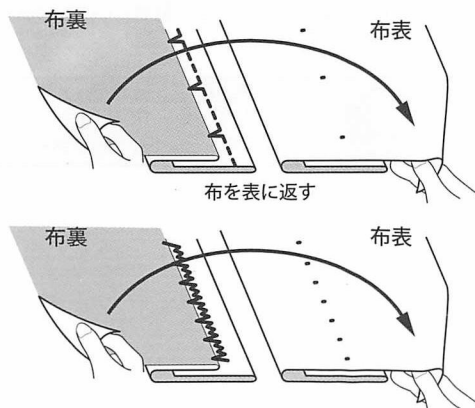
まつり縫い 伸縮まつり縫い



- はずみ車を手前にまわし、針・天ピンを上げます。
- 模様選択ダイヤルをまわし、まつり縫い模様を選びます。
ズボンやスカートの裾上げ、袖口の裁縫に用います。服の寸法直しなどにもご利用いただけます。
- 布を③図のように折り、しつけをします。
- ④でしつけの縫い目を開き、アイロンで伸ばします。



縫い始めるときは、押えを下げます
糸が絡み、縫い損じになります。



点線ジグザグ縫い



針先に注意!
ケガをすることがあります。



下糸巻き軸を左側にします
下糸巻き軸が右側にあると、針が上下しません。



模様選択時は針を上げます
針が折れ、ケガをすることがあります。

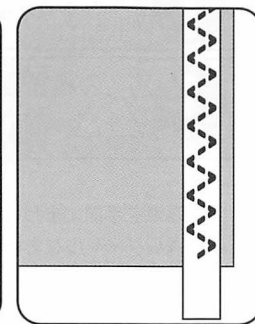
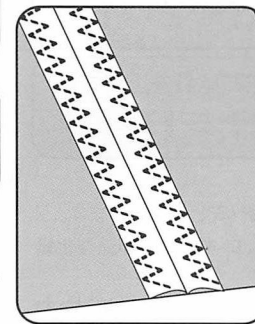
- はずみ車を手前にまわし、針・天ピンを上げます。
- 模様選択ダイヤルをまわし、点線ジグザグ模様を選びます。

ジャージやトリコットなどの伸縮性のある布の縫製に適した模様です。布がのびても縫い糸が切れず、伸縮性布の縁かがりやゴムひもの縫い付けにも利用できます。

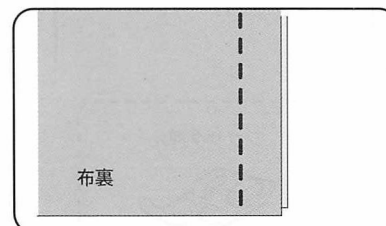
ジグザグ押え



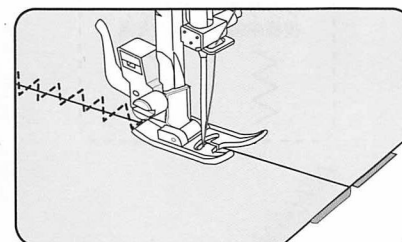
点線ジグザグ



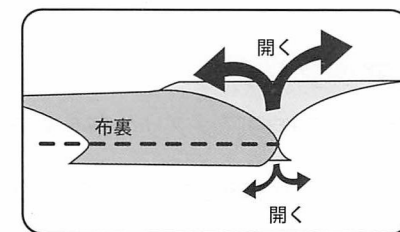
パッチワーク



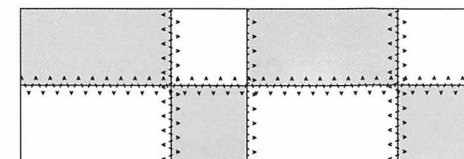
- 2枚の布の表を合わせ、直線縫いで縫い合わせをします。



- 両方の布に模様がまたがるように縫い進みます。






- 縫い合わせを開きます。



いろいろな布を縫い合わせ、装飾に使用します。

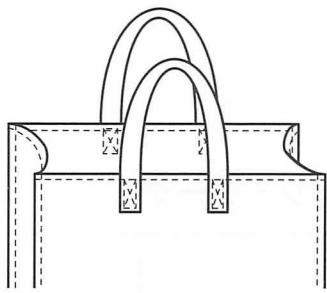
伸縮強化縫い

-  **針先に注意!**
ケガをすることがあります。
-  **下糸巻き軸を左側にします**
下糸巻き軸が右側にあると、針が上下しません。
-  **模様選択時は針を上げます**
針が折れ、ケガをすることがあります。



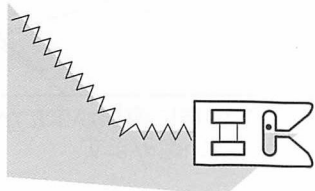
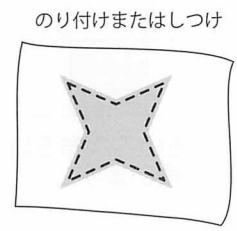
三重直線縫い模様は布をのぼしても縫い糸は切れません。また、非常に強く伸びない縫い模様です。

1. はずみ車を手前にまわし、針・天ピンを上げます。
 2. 模様選択ダイヤルをまわし、いずれかの伸縮強化縫い模様を選びます。
- ジャージ/メリヤスなどの伸縮性布や力がかかりほつれやすい部分、デニムなどの丈夫な布の縫い合わせに最適です。
- 伸縮性布を縫う場合は、ニット針を使うと、目とびや糸切れを防ぐことができます。



アップリケ


- 市販や自作のアップリケ布を丈夫に縫い付けます。
1. アップリケ布をしつけします。(のり付けやしつけ)
 2. アップリケ布の布はしを縁かがりと同じ要領で縫い進めます。
- 急な角度を縫う場合は、布はしに針を刺して押えを上げ、布をまわします。



お手入れのしかた

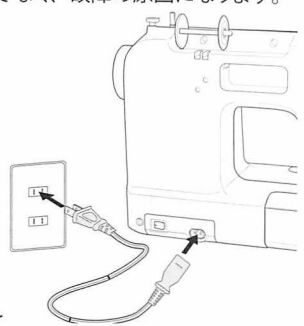
-  **注意**
-    **電源プラグを抜く**
突然動くケガをすることがあります。

カマの中にほこりや糸くずがたまとミシンの回転が重くなるだけでなく、故障の原因になります。次の手順で掃除や確認を行ってください。

-  **針ははずします**
ケガをすることがあります。

●お手入れのまえに



1. 電源スイッチを「OFF」にし、電源コードを抜きます。
2. 上糸、下糸(ボビン)をはずします。
3. はずみ車をまわし、針を上げます。
4. 付属の針板ドライバーで針止めネジをゆるめ、針をはずします。
5. 押え上げレバーを上げ、押えをはずします。





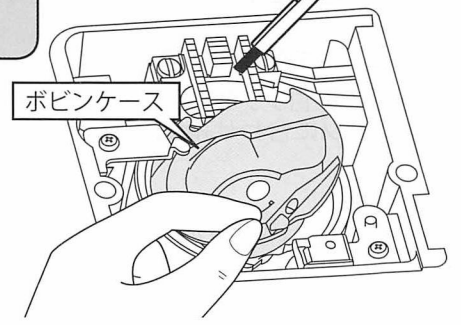
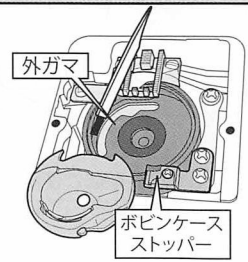
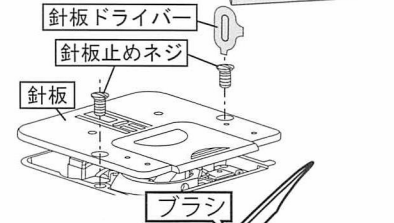
●ゴミを取る(外ガマ中と送り歯ミツ)

6. 針板をはずします。(針板止めネジ2本を付属の針板ドライバーではずします)
7. ボビンケースがボビンケースストッパーにセットされていることを確認します。
ミシン運転時はボビンケースが回転しません。ボビンケースストッパーによって止められています。
8. ボビンケースをはずします。
ボビンケース手前を持ち上げ、引き出します。
9. 外ガマのほこりや糸くずを取り除きます。



-   **掃除中ははずみ車に触れない**
ケガをすることがあります。

-   **外ガマの先端に触れない**
ケガをすることがあります。



10. ボビンケース外周のへこみ部分を送り歯の下に挿入し、水平に外ガマの上に置きます。

7.のボビンケースストッパーと同様にセットされていることを確認します。

11. カマとボビンケースから手を離し、はずみ車が抵抗なくまわすことを確認します。

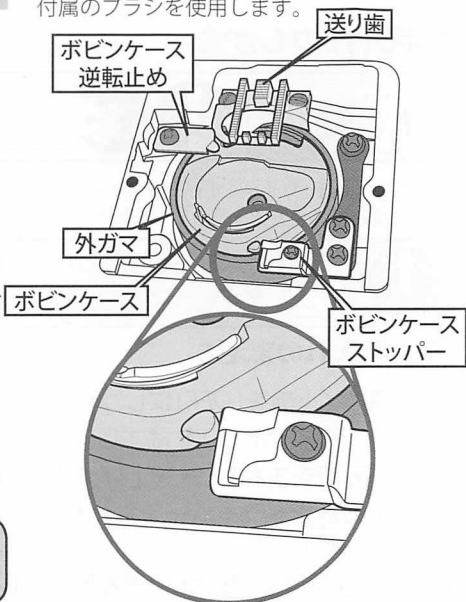
ボビンケースは回転しません。外側の外ガマのみ回転します。

12. 針板をのせ、針板止めネジでしっかり固定します。

13. もう一度、はずみ車をまわします。

正常にセットされているかを確認します。

付属のブラシを使用します。



外ガマの先端に触れない
ケガをすることがあります。



カマ部分は注油しない
糸が絡み、故障します。



電源コードははずします

ケガをすることがあります。



ランプに注意

ケガ・やけどをすることがあります。

●ランプの交換

1. 電源コードを抜いてください。

ランプは熱くなっているため、電源を切り、十分にさましてから作業をします。

2. 面板をはずします。

手前に強く引くとはずれます。

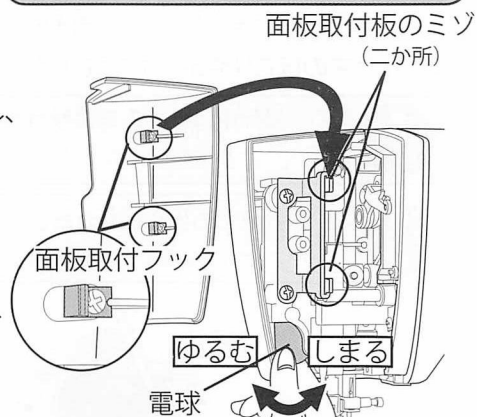
3. ランプのカバー部分下から指を挿入し、電球をはずします。

図の「ゆるむ」方向に電球をまわします。

4. 新しい電球を下から挿入し、取り付けます。

図の「しまる」方向に電球をまわします。

5. 面板の取付フックをミシンの面板取付板のミゾに合わせ差し込みます。



●注油

このミシンは注油の必要がありません。ただし、長期間ご使用にならない場合は、ほこりや油の乾燥などで動かなくなることがあります。ご購入店または当社のサービス係にお問い合わせください。

こんなときは(調子が悪いとき)

不具合	原因	処置	参照ページ
布を送らない	●縫い目の長さが布に合っていない	模様を選び直します	P22,23
	●送り歯に糸くずやゴミがたまっている	掃除します	P31,32
	●押えが下がっていない	押え上げレバーを下げます	P10
針が折れる	●布を無理に引っぱっている	手は布にそえるだけにします	P24
	●針の取り付けかたをまちがっている、しめかたがゆるい	正しくつけ直します	P9
	●布に対して針が細すぎる	布と糸、針の関係を合わせます	P8
	●糸調子が強すぎる	上糸調子を微調整します	P24,25
回転が重く、音が大きい	●カマの中に糸くずやゴミがたまっている	針板をはずし、掃除します	P31,32
	●送り歯のミゾにゴミがたまっている	針板をはずし、送り歯を掃除します	P31,32
縫い目に輪ができる	●ボビンのセットを間違っている	正しくセットします	P15
	●糸のかけかたをまちがっている	正しくかけなおします	P16,17
	●糸調子が合っていない	適正な強さに調整します	P24,25
布の裏がタオル状になる	●上糸のかけかたがまちがっている	正しくかけなおします	P16,17
	●上糸調子ツマミが「弱」になっている	適正な強さに調整します	P24,25
	●押えが下がっていない	押え上げレバーを下げます	P10
ミシンが動かない	●電源コードの差し込みが不十分	しっかり差し込みます	P11
	●電源スイッチが入っていない	電源スイッチを入れます	P11
	●下糸巻き軸が右になっている	下糸巻き軸を左にします	P16,22

不具合	原因	処置	参照ページ
上糸が切れる	●糸のかけかたをまちがっている	正しくかけなおします	P16,17
	●ボビンケースに糸がからんでいる	からんだ糸を取り除きます	P31,32
	●針の取り付けかたをまちがっている	正しくつげなおします	P9
	●糸調子が強すぎる	適正な強さに調節します	P24,25
	●布に対して糸が細すぎる	布と糸、針の関係を合わせます	P8
下糸が切れる	●ボビンのセットをまちがっている	正しくセットしなおします	P15
	●ボビンケースに糸がからんでいる	からんだ糸を取り除きます	P31,32
	●カマに糸くずがたまっている	掃除をします	P31,32
	●下糸の調子が強すぎる	上糸がはずれています	P16,17
縫い目が飛ぶ	●針の取り付けかたをまちがっている	正しくつげなおします	P9
	●針が曲がっているか、先がつぶれている	針を交換します	P9
	●布に対して糸と針が合っていない	布と糸、針の関係を合わせます	P8
縫い目にしわができる	●糸のかけかたをまちがっている	正しくかけなおします	P16,17
	●ボビンのセットがまちがっている	正しくセットしなおします	P15
	●針の先がつぶれている	針を交換します	P9
	●糸調子が強すぎる	適正な強さに調整します	P24,25

この説明書に記載されている不具合および、それ以外の不具合または部品の交換、電気系統の故障の修理サービスは、ご購入店または下記の「サービス係」にお問い合わせください。

サービス工場のご案内

【送付先】〒544-0022 大阪市生野区舍利寺 3-12-5 TEL06-6717-5851

株式会社 アックスヤマザキ サービス係 行

☎ 0120-40-5851

(月曜~金曜 午前9:00~12:00 午後1:00~5:00 土曜・日曜・祝祭日休み)

純正部品のご購入は購入店または、上記のサービス工場へお申し込みください。

ご購入いただきましたミシンは、上記の専門工場で点検修理等のサービスを致します。なお、サービスには有償と無償の場合がありますので、サービス工場にお問い合わせの上、ご送付ください。

※修理、引っ越し等の輸送にはこのミシン箱と緩衝材(発泡スチロール)をご利用ください。

修理サービス要領

●修理サービスのご相談

- 1.このミシンのご購入者には、ご購入日から1年間の「無料修理保証書」が発行されます。内容をお確かめの上、大切に保存してください。
- 2.修理サービスは無料保証期間内および期間経過後も原則としてご購入店が承りますので、ご相談ください。
- 3.修理サービスについてお問い合わせやご不審のある場合は、ご購入店または、お客様相談係へお申しつけください。

●修理用部品の保存と供給

動力伝達機能部品および縫製機能部品のうち、交換修理に必要な部品は、ご購入の日から通常8年間は必要に応じて当社よりご購入店に供給できる体制を整えております。

●無料修理保証期間後の修理サービス

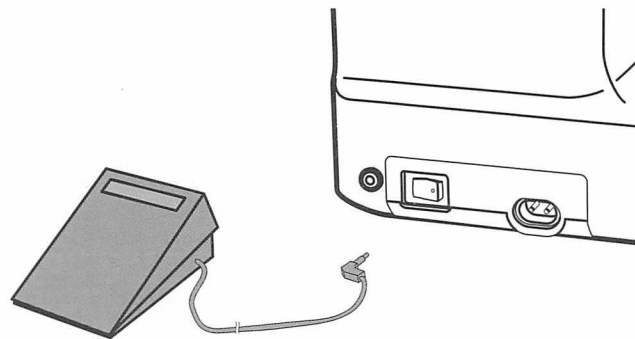
- 1.取扱説明書に基づいて、正しい使用とお手入れがされていれば、無料修理保証期間を経過しても修理用部品の供給可能期間中は、ご購入店を通じて有料で修理サービスをいたします。ただし、次に該当する場合は、有料でも修理できない場合がありますので、ご購入店にご相談ください。イ.保存上の不備または、誤使用により不調、故障または損傷したとき。ロ.浸水、冠水、火災等、天災、地震により不調、故障または損傷したとき。ハ.ご購入後の移動または輸送によって不調、故障、損傷したとき。ニ.ご購入店または当社の指定する販売店あるいはサービス店以外で修理、分解、または改造したために不調、故障または損傷したとき。
- 2.長期間にわたってご使用されたミシンの精度の劣化は修理によって元どおりに修復できないことがあります。
- 3.有料修理サービスの場合の費用は、別に定める必要部品代金、交通費および技術料金の合計額となります。

仕様

形式	MS-8200シリーズ	周波数	50Hz/60Hz
寸法	幅38.2cm:奥行17.5cm:高さ28.5cm	カマ形式	水平全回転カマ
重量	5.5kg	ボビン	HAプラスチックボビン
定格電圧	家庭用交流電源 100V	押え高さ	針板面より約6mm
消費電力	55W(口径E12ランプ5w含)	最大送り長さ	3.8mm
適用針	HA×1 #9~#16	最大針振幅	5.0mm

●フットコントローラーの使いかた

1. フットコントローラーのピンジャックをミシン本体のフットコントローラーjack挿入口に奥まで確実に差し込みます。
2. 電源コードを接続し、電源スイッチを「入」にします。
3. フットコントローラーを少しずつ踏み込むと、みしんが動き始めます。踏み込むほどミシンのスピードが速くなります。
4. 踏み込むのをやめるとミシンは針が上で停止します。



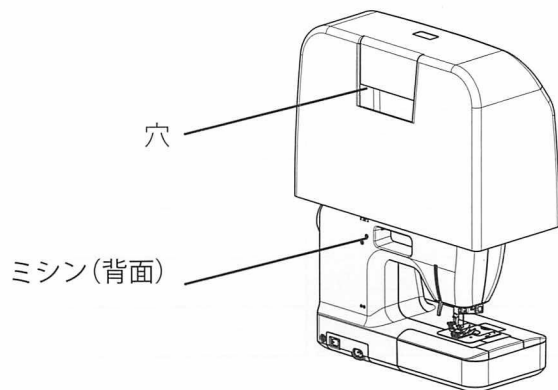
ミシン本体のスピード調節つまみでフットコントローラーでの最高速度が調節出来ます。
フットコントローラをつないでいるときは、ミシン本体のスタート/ストップボタンを押しても動きません。

●ハードケースの使いかた

1. 穴の開いた方を背面になるようにかぶせます。

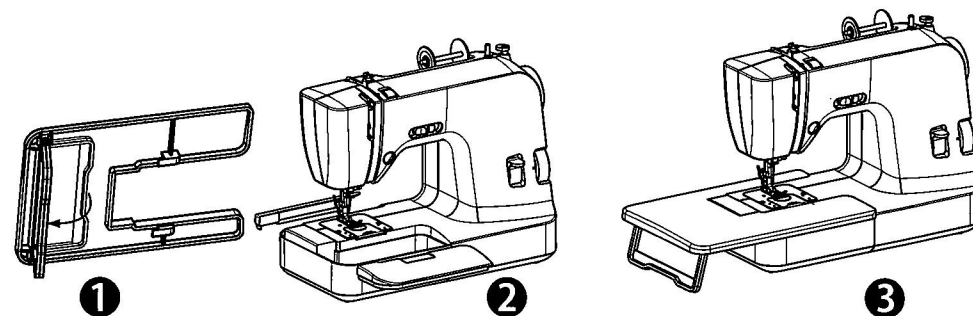
ミシンとともに持ち運びができます。

*ハードケース内部の緩衝材（発泡スチロール）は取り外さないでください。



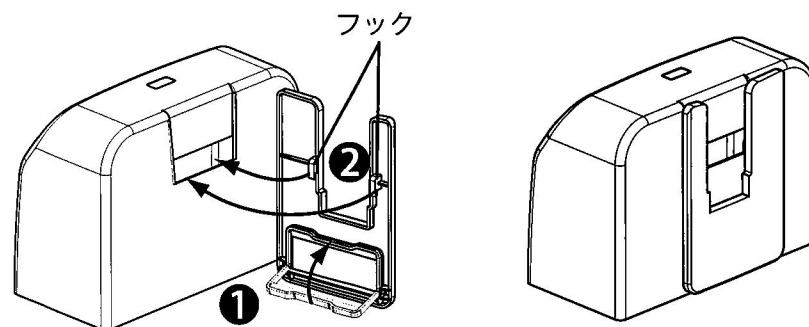
●ワイドテーブルの使いかた

1. 脚を起こします。
2. ミシンの前後の補助箱ふたをはずします。
3. 補助箱ふたをはずしたところにテーブルをセットします。



●ワイドテーブルの収納

1. 脚をたたみます。
2. テーブル裏面のフック部をハードケースの穴にかけます。



オプション品のお問い合わせはミシンの機種をお確かめのうえ、下記までお問い合わせください

【送付先】〒544-0022 大阪市生野区舍利寺 3-12-5 TEL06-6717-5851

株式会社 アックスヤマザキ サービス係 行

☎ 0120-40-5851

(月曜~金曜 午前9:00~12:00 午後1:00~5:00 土曜・日曜・祝祭日休み)

保証書

機種	MS-8200シリーズ		機械番号	
※お買い上げ日	年 月 日		保証期間	お買い上げ日より本体1年
※お客様	ご住所	〒 - TEL - -		様方
	ご氏名			
※販売店	住所	〒 -		
	店名	TEL - -		

ご購入後は※印欄への記入の有無をご確認ください。記入がないときは直ちにお買い上げの販売店にお申し出ください。
本書は再発行致しません。紛失しないよう大切に保管してください。

無料修理保証について

- この取扱説明書・本体添付ラベルなどの注意書きに基づき正しい使用とお手入れがされ、保証期間中に故障した場合には、商品と本書をご持参・ご提示の上、お買い上げの販売店に修理をご依頼ください。無料修理をさせていただきます。
- なお、保証期間中の修理などアフターサービスについてのご不明な点は、お買い上げの販売店または直接下記へご相談ください。
- 次のような場合は、保証期間内であっても有料修理になります。
 - 保証書が提示されないとき
 - 保証書にお客様名・お買い上げ日・販売店の記入がないとき
 - 消耗部品の交換
 - お買い上げ後の落下や輸送上の故障・損傷
 - ご使用後の傷、変色、よごれ及び保管上の不備による損傷
- また、次のような場合は有料でも修理ができないときがあります。販売店にご相談ください。
 - 保管上の不備または、まちがった使用での不調・故障または損傷
 - 火災、塩害、ガス害、地震、風水害、落雷、異常電圧およびその他の天災地変による故障・損傷
 - お買い上げ後の落下や輸送上の故障・損傷
 - 職業用としての無理なご使用による故障・損傷
 - 購入店または当社の指定する販売店/サービス店以外での修理、分解や改造されたための故障・損傷
- 本書は、日本国内においてのみ有効です。

This Warranty is valid only in Japan.

- ご転居の場合は、事前にお買い上げの販売店にご相談ください。
- 贈答品などで本書記入してあるお買い上げ販売店に修理をご依頼できない場合は、直接下記へご相談ください。
- 長期間にわたり、ご使用されたミシンの精度の劣化は元どおりに修復できないことがあります。
- 有料修理の場合は、別に定める必要部品代金、輸送費および技術料の合計となります。

※この保証書は、本書により明示した期間、条件の下において無料修理をお約束するものです。

したがって、この保証書によりお客様の法律上権利を制限するものではありません。なお、ご不明な点はお買い上げの販売店または直接下記へ、お問い合わせください。



【保証責任者】株式会社 アックスヤマザキ
〒544-0022 大阪市生野区舍利寺3丁目12番5号
TEL 06-6717-5851~3

お手入れのしかた

10. ボビンケース外周のへこみ部分を送り歯の下に挿入し、水平に外ガマの上に置きます。

7. のボビンケースストッパーと同様にセットされていることを確認します。

11. カマとボビンケースから手を離し、はずみ車が抵抗なくまわることができることを確認します。

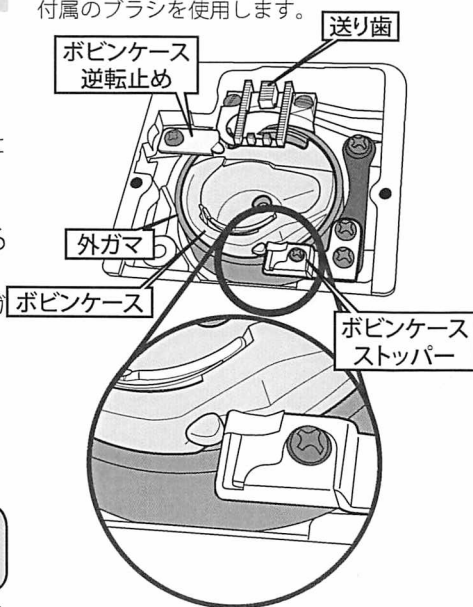
ボビンケースは回転させません。外側の外ガマのみ回転します。

12. 針板をのせ、針板止めネジでしっかり固定します。

13. もう一度、はずみ車をまわします。

正常にセットされているかを確認します。

付属のブラシを使用します。



外ガマの先端に触れない
ケガをすることがあります。



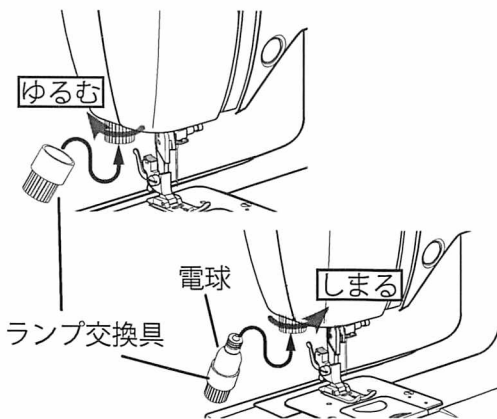
カマ部分は注油しない
糸が絡み、故障します。

●ランプの交換



ランプに注意
ケガ・やけどをすることがあります。

1. 電源コードを抜いてください。
ランプは熱くなっているので、電源を切り、十分にさましてから作業をします。
2. 付属のランプ交換具を使用してランプをはずします。
図の「ゆるむ」方向にまわします。
3. ランプ交換具に新しい電球を挿入し、ランプを取り付けます。
図の「しまる」方向にまわします。



注意



電源プラグを抜く

突然動くとケガをすることがあります。

●注油

このミシンは注油の必要がありません。ただし長期間で使用にならない場合は、ほこりや油の乾燥などで動かなくなることがあります。ご購入店または当社のサービス係にお問い合わせください。